

SSI 学会誌編集委員会 2014 年度第 2 回委員会 議事録

日時：2014 年 9 月 21 日（日）16:15～17:30

場所：京都大学吉田南総合館北棟 3F 共北 3B 演習室

出席者(敬称略)：

橋元良明[委員長] (東京大学)、遠藤薫[副委員長] (学習院大学)、北村順生[副委員長] (新潟大学)、櫻井成一朗[副委員長、英文誌主任] (明治学院大学)、(以下 50 音順) 伊藤賢一 (群馬大学)、岩井淳 (群馬大学)、小笠原盛浩 (関西大学)、岡田安功 (静岡大学)、河又貴洋 (長崎県立大学)、北村智 (東京経済大学)、金相美 (名古屋大学)、五藤寿樹 (日本橋学館大学)、関谷直也 (東京大学)、田中秀幸 (東京大学)、野田哲夫 (島根大学)、服部哲[ネットワーク担当] (駒澤大学)、吉田寛 (静岡大学)

欠席者(敬称略)：

今田寛典 (広島文化学園大学)、大國充彦 (札幌学院大学)、岡田勇 (創価大学)、黒須俊夫 (国士舘大学)、小郷直言 (大阪大学)、後藤玲子 (茨城大学)、是永論 (立教大学)、松下慶太 (実践女子大学)、山本佳世子 (電気通信大学)、吉田純 (京都大学)

(文責：北村)

【報告事項】

1. 学会誌発行状況

橋元良明委員長より、第 2 巻 3 号が 6 月 31 日に刊行されたことが報告された。

また、第 3 巻 1 号編集担当責任者(編集長)の五藤寿樹委員より、同号の原稿は既に印刷所に入稿済みであり、9 月 30 日付け刊行予定であるが、印刷が完成次第会員向けに発送予定であることが報告された。

2. 第 3 巻 2 号、3 号編集長

第 3 巻 2 号の編集長は北村智・小笠原盛浩両委員が担当し、2014 年 12 月刊行予定であることを確認した。

また、第 3 巻 3 号の編集長は関谷直也・後藤玲子両委員が担当し、2015 年 3 月刊行予定であることを確認した。

3. 英文誌の編集刊行状況

櫻井成一朗副委員長より、英文誌は 2014 年 10 月中に刊行予定であり、内容は論文が 4~5 本で 50 ページ程度となる予定であることが報告された。

4. 表彰委員会からの依頼(優秀論文賞ないし論文奨励賞への推薦)への対応状況

前回編集委員会で承認されたように、「様式 5a 査読報告書」にチェック欄を設け、3 名

の査読者のうち 1 名でも各賞の候補として推薦された論文に対しては、編集委員会として表彰委員会に推薦することを確認した。査読者への推薦依頼は、次号第 3 巻 2 号から開始することになった。

5. 学術論文掲載証明書の発行について

学会誌掲載が決定した論文に関し、著者から依頼があった場合に発行する「学術論文掲載証明書」について、橋元良明委員長より書式の提案があった。証明書の発行者名は学会長とし、学会公印を押印する形式とすることで承認した。

なお、編集委員会より原稿執筆を依頼する「推薦論文」（審議事項「7. その他」参照）の場合も、著者より依頼があった場合は同証明書を発行することとした。

6. その他

(1) 印刷所からの連絡事項について

第 3 巻 1 号編集長・五藤寿樹委員から、和文雑誌の印刷を発注している朝日印刷工業の担当者より、編集長および原稿執筆者向けの校正方法等の依頼事項があったことが報告された。

【審議事項】

1. 前回議事録確認

前回 2014 年度第 1 回編集委員会（2014 年 6 月 14 日）の議事録を確認し、承認した。

2. 第 3 巻 2 号以降の特集について

(1) 毎年のルーティーン作業

前回編集委員会で承認された特集企画の編集方針に基づき、橋元良明委員長より毎年のルーティーンについて以下の内容が提案され、承認した。また、大会ワークショップの概要報告の原稿サンプルとして、2013 年度シンポジウム II 報告書（文責：西垣通会員）が配布された。

○大会シンポジウム [9 月開催] :

テープ録音確認→テープ起こし依頼 [~10 月末まで] / 登壇者に発表概要執筆依頼 / 司会者に概要取りまとめ依頼 [~10 月末まで] / テープ起こし原稿を登壇者・司会者に送付 / 原稿整理依頼 [~1 月末まで] / 司会者が原稿取りまとめ [~3 月末まで] / 翌年度第 1 号掲載 [6 月刊行]

○大会各種ワークショップ [9 月開催] :

司会者に概要掲載の打診 / 「可」の場合→司会者（または登壇者のどなたか）に概要原稿執筆依頼（2~10 ページを目安） [~12 月末締め切り] / 同年度第 3 号掲載 [3 月刊行]

○大会各種優秀賞〔9月開催〕：

概要執筆依頼（2～5ページを目安）〔～10月末締め切り〕／同年度第2号掲載〔12月刊行〕または第3号掲載〔3月刊行〕

○各種研究会（支部研究会を含む）：

概要原稿の執筆を依頼する

（2）第3巻2号以降の特集企画の作業

第3巻2号以降の特集企画について、以下の通りに作業を進行していくことが承認された。

○2013年度学会大会シンポジウムⅠおよびシンポジウムⅡ：

橋元良明委員長および遠藤薫副委員長が登壇者からの原稿を取りまとめて、第3巻2号編集長の北村智・小笠原盛浩両委員に送付する。原稿が未提出の登壇者については、再度、連絡をした上で、なおも提出されない場合は該当原稿をカットする。

○2014年度6月14日シンポジウム（ビッグデータ、オープンデータ）：

既に田中秀幸委員・大会企画委員長が正村俊之研究活動委員長とともに登壇者に原稿執筆を依頼済み。原稿締め切りは9月末。第3巻2号に掲載予定。

○2014年度学会大会シンポジウムおよび各種ワークショップ：

北村智委員が既にシンポジウムおよび各ワークショップの司会者等に原稿執筆を依頼済み。原稿締め切りは11月末。第3巻2号に掲載予定。

○2014年度学会大会若手カンファレンス：

服部哲委員より、若手カンファレンスの学会誌での報告は、発表者と相談した結果、12月に若手カンファレンスを同じメンバーでもう一度開催し、それを含めての報告としたいという提案がされ、承認した。

○特集「ビッグデータ、オープンデータ」：

関谷直也委員が原稿応募文案を作成し、9月中に原稿を公募開始。原稿締め切りは12月。査読を経て、第3巻3号に掲載予定。状況に応じて、第4巻1号以降に掲載。

○特集「災害と社会情報」：

関谷直也委員が4名に推薦論文の執筆を依頼予定。原稿締め切りは11月末。第3巻3号に掲載予定。

（3）今後の特集企画

今後の特集企画については、次回編集委員会（2014年12月13日開催予定）の際に、各委員がテーマおよび公募・依頼の別、原稿依頼者等の企画案を持ち寄った上で、検討することとなった。

3. 第4巻以降の和文雑誌編集長、英文雑誌編集長について

橋元良明委員長より、来年度の役員（理事）改選の時期にあわせて、編集委員について

も一部を入れ替える方針が提示された。しかし、第4巻1号の和文誌編集長および来年度の英文誌編集長については、現編集委員会で選任しておく必要があるため、以下のように決定した。

[2015年度編集長の予定]

○第4巻1号（2015年6月刊行予定）：

中森弘道会員（日本大学）および森田均会員（長崎県立大学）に新たに編集委員就任を依頼し、編集長を担当してもらう。なお中森会員へは関谷直也委員、森田会員へは河又貴洋委員が編集委員就任を打診する。

○2015年度英文雑誌編集長：

櫻井成一朗副委員長・金相美委員

4. 電子著作物の学術著作権協会への権利委託、学会誌電子化に伴うネット公開処置について

（1）電子著作物の学術著作権協会への権利委託について

五藤寿樹委員より、前回編集委員会での決定を受け、電子著作物の学術著作権協会への権利委託に関し、同協会に詳細を照会した結果が報告された。それによると、紙媒体では既に同協会に権利委託を行っていること、新たに電子著作物の権利委託を行った場合も、有料になる利用者はデータベース業者などの企業であり、個人利用者に課金されることはないとのことであった。審議の結果、今後、総務委員会です承されることを条件として、電子著作物の同協会への権利委託を行うことになった。

（2）学会誌電子化に伴うネット公開処置について

岩井委員より、和雑誌の電子化にともない、当面は学会ホームページ上で学会誌論文を公開することが必要である点の説明があった。その理由は、当初は電子化した学会誌論文はCiNii上で公開し、学会ホームページ上ではリンクのみを張る予定であったが、国立情報学研究所（NII）の方針でCiNiiは廃止され、新たにJ-STAGE Liteへ同様の機能が移行されることになるが、J-STAGE Liteの開始予定時期が2015年12月であるため、学会誌の電子化（英文誌は2014年9月刊行予定号から、和文誌は2014年12月刊行予定の第3巻2号から）に間に合わないためである。審議の結果、当面は学会ホームページ上で学会誌論文を公開していくことを決定した。

5. 「学会誌要綱」「執筆要領」等の修正について

（1）「学会誌要綱」および「執筆要領」の修正について

北村副委員長より、投稿の郵送受付廃止にともなう学会誌要綱の改正、および執筆要領の文言不整合を修正するための改正について提案がされた。審議の結果、承認した。

(2) 「様式 8a 投稿原稿の審査結果について（報告）」および「修正原稿生成上の注意事項」の修正について

北村副委員長より、査読者の修正コメントに対して投稿者が無条件で従わなければならないと誤解しかねない文言に関する修正が提案された。審議の結果、承認した。

(3) 「様式 5a 査読報告書」の修正について

岩井淳委員より、「様式 5a 査読報告書」の記入方式に関して、従来の丸をつけて選択する書式だと誤認する危険性があるため、選択した記号を記入する書式への修正が提案された。審議の結果、承認した。

(4) 関連規則、書式等のネットワーク上での共有について

北村副委員長より、編集委員の間で関連規則や書式等の最新版を共有するために、ネットワーク上でのデータ共有について提案された。審議の結果、学会ホームページ上でパスワードを付してデータ閲覧が可能な形態をとることが決定した。

6. ネットワーク委員 2 名体制について

櫻井成一朗副委員長より、学会誌の電子化にともない、ネットワーク委員を 2 名に増員する提案が行われた。審議の結果、従来の服部哲委員に加えて、櫻井成一朗副委員長もネットワーク委員を担当することになった。

7. その他

(1) 依頼論文の論文名称について

関谷直也委員より、編集委員会から原稿執筆を依頼した論文の名称について提案があった。他学会の状況などを参考にして審議した結果、当面は「推薦論文」と仮称することになった。なお、最終的な名称については、次回編集委員会（2014 年 12 月 13 日開催予定）で決定することになった。

(2) 「推薦論文」（仮称）執筆者への抜き刷り贈呈について

関谷直也委員より推薦論文執筆者への抜き刷り贈呈について提案があったが、推薦論文（仮称）を査読付きとすることになったため（「(3) 「推薦論文」（仮称）の査読について」参照）、抜き刷りの贈呈までは不要であるとして、関谷委員から提案が取り下げられた。

(3) 「推薦論文」（仮称）の査読について

関谷直也委員より、推薦論文（仮称）を査読付きの形態とした方が、執筆者に原稿依頼を受諾してもらいやすいという提案があった。審議の結果、特集「災害と社会情報」を含めて、推薦論文（仮称）は査読者 1 名による査読を行い、査読者コメントに応じて執筆者が適切に原稿修正を行うことにより、査読付きとして取り扱うことを決定した。また、推

薦論文（仮称）が査読付きであることを、学会誌上でも明記することとした。

なお、推薦論文（仮称）新設にともなう関連規則類の改定については、次回編集委員会（2014年12月13日開催予定）で検討することとなった。

（４）笹川科学研究助成の募集の学会誌掲載について

笹川科学研究所助成の募集について、学会誌に掲載して周知することについて、審議の上で承認した。

（５）学会大会の優秀発表者に対する原稿執筆の勧誘について

学会大会の研究発表優秀賞の受賞者に対して、推薦論文（仮称）の原稿執筆を依頼することにした。2014年度学会大会で表彰された2013年度同賞受賞者は、中野邦彦会員（東京大学）、福安真奈会員（名古屋大学）、堀川裕介会員（東京大学）であるが、中野会員は既に当該内容をもとにした論文を投稿済みであるので、他の2名に対して原稿執筆を依頼することになった。

また、学会大会・自由論題報告のすべての司会およびコメンテータにメールで打診して、優秀な発表者を推薦してもらうことになった。その上で、推薦された発表者に対して、編集委員会から原稿の投稿を依頼・勧誘することになった。

（６）査読の進捗状況のチェック体制について

五藤寿樹委員より、査読の進捗状況を以下のような形で管理していくことが提案された。審議の結果、了承された。

- 1) 投稿論文の受付担当者（櫻井成一朗副委員長）は、受付済みの投稿論文を該当号の編集担当責任者（編集長）と査読管理者（岡田勇委員）に送付する。
- 2) 編集長より選出された各論文の審査担当委員は、査読者または閲読者の選定が決まり次第、「様式1 投稿受付台帳」を作成して査読管理者に送付する。
- 3) 審査担当委員は、「様式1 投稿受付台帳」の内容が更新された場合は、その都度、査読管理者に送付する。
- 4) 査読管理者は、月に一度、すべての論文査読の進捗状況を編集委員長に報告する。
- 5) 編集委員長は、月に一度、査読管理者からの報告に基づき、すべての論文査読の進捗状況を編集委員会メーリングリスト上に報告し、必要な指示を行う。
- 6) 投稿論文の最終的な採否が決定した場合、審査担当委員は「様式1 投稿受付台帳」を査読管理者に送付する。

（７）学会誌編集委員会の問い合わせ用メールアドレスについて

会員等からの問い合わせに対応するために、学会誌編集委員会の問い合わせ用メールアドレス<editor@ssi.or.jp>を作成して、学会ホームページ上で公開することにした。

以上